

メインシンポジウム | 特別講演

脳卒中患者の老年口腔医学

座長:佐藤 裕二(昭和大学歯学部高齢者歯科学講座)

Fri. Jun 22, 2018 2:10 PM - 3:40 PM 第1会場 (8F 大ホール)

【略歴】

1982年 広島大学歯学部卒業
 1986年 広島大学大学院（歯科補綴学1）修了
 1986年 広島大学歯学部附属病院助手
 1988年～1989年 米国NIST客員研究員
 1990年 広島大学歯学部講師
 1994年 広島大学歯学部助教授
 2002年 昭和大学歯学部教授（高齢者歯科学）
 日本老年歯科医学会指導医・常任理事
 日本補綴歯科学会専門医・指導医
 日本口腔インプラント学会指導医
 日本顎関節学会専門医・指導医
 日本歯科医学教育学会常任理事

【抄録】

死因の第一位であった脳血管疾患は1980年には悪性新生物に抜かれ、1985年には心疾患に抜かれ、2012年頃には肺炎に抜かれ、死因の第4位となった。これは決して脳血管疾患が減少しているためではなく、救急医療（脳卒中ユニットや血栓溶解療法など）の充実による生存率の向上による。一方、脳血管疾患が要支援・要介護の原因の第一位を占めるようになり、今後も増加が懸念される。そのため、歯科治療のニーズもさらに高まってくると考えられる。そこで、関連3学会で共催シンポジウムを企画した。

日本有病者歯科医療学会からは岩淵博史先生を、日本障害者歯科学会からは平塚正雄先生を、日本老年歯科医学会からは古屋純一をご推薦いただき、全身管理、歯科的対応、口腔機能低下への対応といった、3つの方向からのご講演をいただき、討論を行う。会員各位の脳卒中患者への総合的対応能力の向上に繋がるものとする。

[MS1-2]障害者歯科医療からみた脳卒中患者への対応

○平塚 正雄¹ (1. 医療法人博仁会福岡リハビリテーション病院歯科)

【略歴】

1987年 福岡歯科大学歯学部卒業
 1987年 同大学麻酔学教室入局
 1991年 福岡歯科大学歯科麻酔学講座助手
 1992年 福岡歯科大学高齢・障害者歯科助手
 1999年 (医) 大乗会福岡リハビリテーション病院障害者歯科部長
 2002年 沖縄県口腔衛生センター歯科診療部長
 2004年 (医) 博仁会福岡リハビリテーション病院歯科部長

脳卒中は多彩な臨床症状と機能障害を引き起こすため、急性期から回復に向けたプロセス管理が行われる。急性期は「疾病の治療」が中心に行われ、回復期では運動機能や日常生活動作（以下、ADL）の能力低下に対する「障害の改善」を目的としたリハビリテーション（以下、リハ）が行われる。回復期は急性期と生活期をつなぐ重要な時期で、歯科的にもスペシャルニーズの対応が特に必要な時期になる。生活期は獲得したADLの低下防止を目的とした「生活の安定」のためのマネジメントが行われる。このように脳卒中では「疾病」から「障害」、「障害」から「生活」へとアプローチの視点が変化していく。回復期では入院時のADL能力の程度により転帰予測に基づいたリハゴール設定が行われるが、患者の重症度やADL能力の程度はさまざまであり、口腔環境

もこれらの要因により大きく影響を受ける。

本シンポジウムでは回復期病院における脳卒中患者のADL能力に準じた歯科的对応について、当院の取り組みを含めて述べてみたい。